

本校訪問教育部

令和7年度 月別在籍児童・生徒数一覧

各月の延べ人数

学部	学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学部	1		3	4	5	2	4	4	2	2	6	4	2
	2			3	3	1	5	4		3	2	1	
	3	3	5	5	4	3	5	6	4	4	7	9	5
	4	3	3	3	3	2	2	5	4	6	2	5	3
	5	4	4	2	1	1	8	1	3	4	4	2	2
	6	2	2	1	1		2	2	3	4	5	2	1
	小計	12	17	18	17	9	26	22	16	23	26	23	13
中学部	1	2	2	3	2	2	3	4	3	4		3	2
	2	1	1	1			2	3	4	4	3	5	1
	3	4	4	6	4	2	4	6	2	4	3	1	
	小計	7	7	10	6	4	9	13	9	12	6	9	3
高等部	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	2												
	3												
	小計	1	1	1	1	1	1	4	1	1	1	1	1
合計		20	25	29	24	14	36	36	26	36	33	33	17

3月のみ1日付け人数

令和7年度 疾患分類別児童・生徒数

全病連による疾患分類表より(延べ人数)													
疾患分類	学部・学年		小学部				中学部			高等部			計
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	
結核など感染症													
腫瘍など新生物													
貧血など血液疾患				1									1
糖尿病など内分泌疾患													
心身症など行動障がい							2	2	1				5
筋ジスなど神経系疾患									1				1
眼・耳・鼻疾患													
リウマチ性心疾患など循環器系の疾患	1	4	3	2	1	1	1	2	1				16
喘息など呼吸器系の疾患													
潰瘍など消化器系の疾患													
アトピー性皮膚炎など皮膚疾患													
ペルテス病など筋・骨格系疾患													
腎炎など腎臓疾患													
二分脊椎など先天性疾患													
骨折など損傷							1						1

Ⅱ 各部・分教室

虚弱・肥満など													
重度・重複など	11	12	21	17	11	13	7	13	9				114
その他							1						1
計	12	16	24	20	12	14	11	17	12				138

本校訪問教育部

令和7年度 児童・生徒出身地域表

		小学部	中学部	計	備考
大阪府	大阪市	7	2	9	
	高槻市	1	5	6	
	池田市	4		4	
	箕面市	5	1	6	
	豊中市	3		3	
	摂津市	1		1	
	吹田市	5	4	9	
	枚方市	1	1	2	
	寝屋川市	1	1	2	
	交野市	1		1	
	大東市	1		1	
	東大阪市	4	4	8	
	堺市	3		3	
	富田林市	3		3	
	八尾市	1		1	
	岸和田市		3	3	
	泉佐野市	1		1	
	守口市	1		1	
	門真市	1		1	
	四條畷市	2		2	
	和泉市		1	1	
	泉大津市		1	1	
	茨木市	1		1	
北海道		1		1	
宮城県		1		1	
埼玉県			1	1	
東京都		4		4	
神奈川県		1		1	
山梨県			1	1	
静岡県			1	1	
長野県		1		1	
岐阜県			1	1	
愛知県		2	1	3	

II 各部・分教室

三重県		4	1	5	
滋賀県		2	1	3	
京都府		5	1	6	
奈良県		6		6	
兵庫県		16	5	21	
和歌山県		1		1	
鳥取県		1		1	
広島県		2		2	
島根県		1		1	
山口県		1		1	
徳島県			1	1	
高知県			2	2	
宮崎県		1		1	
沖縄県		1	1	2	
		98	40	138	

1 児童生徒の実態と今年度の特徴

(小・中学部)

- ・今年度は、小学部 9 学級、中学部 4 学級認定でスタートした。
- ・児童生徒の病気や障がいの状態が多岐に渡り、対応の難しいケースが増加している（重度心身障がい、肢体不自由、知的障がい、心疾患、血液腫瘍、小児がん、高次脳機能障がいなど）。ボバース記念病院では、脳性麻痺の児童生徒が次々と計画入院している。国立循環器病研究センターでは、心臓移植の待機をしている児童生徒が増加しており在籍が長期化している。長期入院の児童生徒中心に病棟での出前授業や社会見学を実施した。さらに移植後の在宅学習も行い、復学に向けてアバターロボットを活用した。また、精神分教室とつないで植物の育成を依頼し、アバターロボットで観察を行ったり、全部署の児童生徒とロボプロ（ロボットプログラミング選手権大会）に向けてプログラムを作り、メンバーで話し合いをオンラインシステムやメタバースを使って行ったりした。
- ・オンラインでの消防署見学やオンデマンドでの地域の工場見学などを行った。
- ・1 週間の短期入院を繰り返す生徒が在籍していた。
- ・急遽事故や病気になり入院し、復学にあたっては注意や支援が必要な児童生徒も多く、病棟と連携をとりケースカンファレンスなども適宜行い、支援の方法を考えたり、復学先の学校を相談したりした。

(高等部)

- ・1 名在籍し、体調に留意しながら学習を行っている。

2 指導の内容と体制

- ・小学部…原則 2 名で担当し、個々の状況に応じて個別学習やグループ学習をおこなっている。
- ・中学部…5 教科対応のケースでは、2 週間で 6 コマの授業をおこなっている。生活課程対応のケースでは 2 名か 3 名で担当している。